平成30年度　全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立湖南中学校）

平成30年9月25日

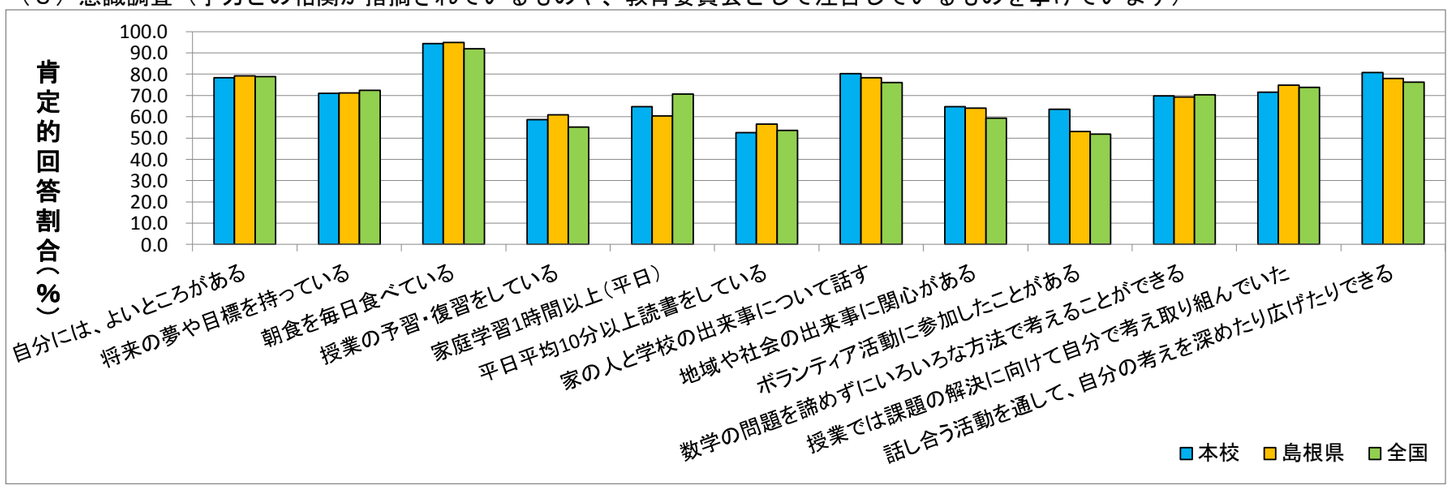
（１）学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
国語	A（基礎）	○文脈に即して漢字を正しく書く力はついている。 ●選択問題、古典の問題で無解答がやや多い。 ●「話すこと・聞くこと」に関して、正答率が低く無解答率が他に比べて高い。	・古典の文章と現代語訳とを対応させながら読み、内容を捉える習慣をつける。 ・仮名遣いを小テスト等で繰り返し確認する。 ・プレゼンテーションやスピーチ等、構成や話し方を工夫する。要点をメモしながら聞く練習をする。
	B（活用）	○本文の内容を描写に注意しながら読み、理解できる。 ○「話す」「聞く」がやや伸びている。 ●相手に的確に伝わるように書くことに課題がある。	・短文の記述力はついてきているので、作文の課題や生活の振り返り等は、文章量を増やして記述の練習を繰り返す。
数学	A（基礎）	○「関数」領域に対する苦手意識は、昨年度の－６ポイントから今回－２ポイントと改善傾向が見られる。 ●全国と比較して、正答数の多い生徒の割合が増えたが、正答数が全問題の１／４の生徒も増え、二極化傾向にある。 ●計算方法のみを覚えようとして、意味理解につながっていない。	・生徒のつぶやきや誤答を生かした授業を展開することで、より正確に理解できるようにする。 ・既習事項の復習を行うことで定着を図り、新たな学習内容に関連性を持たせることで理解を深める。
	B（活用）	○「関数」領域の平均正答率は全国平均よりも４ポイント上回り、活用問題でも改善傾向が見られる。 ○短答式の問題に対する無解答は少なく、正答率も全国平均より上回る。 ●記述問題での無解答率が昨年と比べやや高くなった。	・生徒の言葉で説明する機会を増やすことで、筋道を立てて考え、伝える力を育てる。 ・授業での学習が家庭学習につながるような授業づくり、または宿題提示を心がけ、学習内容の定着を図る。
理科		○各領域とも全国・県平均を下回ってはいるが、中1・中2の頃の県学力調査と比較すると、その差は大きく縮んでいる。 ●「知識・理解」の定着が不十分である。 ●記述問題や計算問題となると無解答率が高い。	・基礎的な内容の徹底が図れるように、朝学習の利用やプリント等を作成し家庭学習の習慣をつける。 ・授業で計算問題のドリルを行う。 ・レポートやテストを活用しながら書く授業を行い、記述への抵抗感を少なくする。

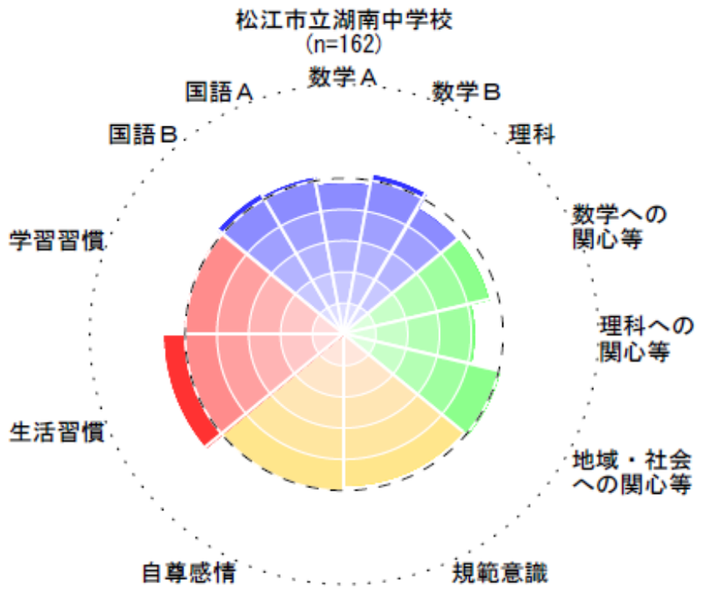
（２）生活意識調査から見られた傾向

成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
○地域の行事等に関心をもち、行事のボランティア活動に参加する者が多い。 ○グループ等での話し合う活動は、自分にとって役立つと感じている者が多い。 ●家庭学習１時間以上（平日）行っている者の割合が少なく、家庭学習の習慣化に課題が見られる。 ●課題解決に向け自分で考え取り組む者の割合は県や全国と比べると少なく、話し合う活動は有意義と感じているものの、他人任せの傾向が見られる。	・将来の夢や目標を持っている者の割合も県や全国と比べると少なく、キャリア教育と結びつけながら内的動機づけを図ることにより家庭学習の習慣化を行う。 ・自ら解決したくなるような課題の設定など、「協同学習」を中心とした授業の工夫。

（３）意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



（４）学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



（５）その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・家庭学習の充実。
　①家庭学習が行いやすくなるような工夫
　　（学校での学びと家庭での学びとの結びつけ）
　②「やらされ感」からの脱却
　③湖南中校区における小学校との連携（小中一貫教育の推進）
・「協同学習」の継続

【参考】

○平均正答率　（%）

		本　校	松江市	島根県	全国
国語	A	76	76	76	76.1
	B	62	61	61	61.2
数学	A	64	65	64	66.1
	B	48	46	45	46.9
理科		64	65	66	66.1

受検者数　162 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。